令和２年１月１６日

府中市議会議長
　横田　　実　様

公明府中
　幹事長　西村　陸[redacted]

行政視察について（報告）

このことについて、次のとおり報告します。

１　日　時　　令和元年１０月２日（水）～４日（金）

２　視察地及び目的
⑴　北海道滝川市「滝川市バイオマスタウン構想について」
⑵　北海道札幌市「複合施設としての札幌市立二条小学校の概要について」
⑶　北海道ニセコ町「㈱ニセコリゾート観光協会・ラジオニセコの概要について」

３　視察者　　遠田宗雄、西村陸、髙津みどり、福田千夏、奈良崎久和

４　視察内容及び所感
別紙のとおり

府中市議会議長
横田　実　様

令和2年1月16日

公明府中　幹事長　　西村　陸

公明府中行政視察について（報告）

このことについて、次のとおり実施いたしましたので報告します。

1　期間　　令和元年10月2日（水）～4日（金）

2　視察地及び目的

（1）滝川市　滝川市バイオマスタウン構想について
＊ 中空知衛生施設組合リサイクリーンの概要について
＊ 生ごみなど廃棄物系バイオマスの利活用について

（2）札幌市　複合施設としての札幌市立二条小学校の概要について
＊ 大通・西まちづくりセンターと児童会館を併設された経過など
福山市本通り・船町商店街アーケード改修PTの概要について

（3）ニセコ町　（株）ニセコリゾート観光協会・ラジオニセコの概要について
＊ 災害時におけるサイマルラジオの効果について
＊ 防災ラジオ（緊急告知FMラジオ）の無償貸与について

3　視察者

遠田　宗雄	府中市晴見町1-23-27	[redacted]
西村　陸	府中市白糸台3-36-18	[redacted]
髙津　みどり	府中市美好町2-27-10	[redacted]
福田　千夏	府中市是政3-16-4	[redacted]
奈良﨑　久和	府中市西原町3-24-19	[redacted]

4　視察内容

（1）滝川市

■市の概要

中空知衛生施設組合の所在地の滝川市は、北海道のほぼ中央で石狩川と空知川に挟まれた平野部に広がる平坦な地形。寒暖の差が激しい内陸性気候。平均気温７度前後。

■視察項目　滝川市バイオマスタウン構想について

滝川市を通じ、中空知衛生施設組合が管理運営する広域ごみ処理施設「リサイクリーン」を視察した。

担当者	滝川市議会事務局議事政策係　池田茂喜　主査 中空知衛生施設組合事務局　千葉一稔　主幹

■主な対応

中空知地域の３市２町（赤平市、芦別市、滝川市、雨竜町、新十津川町）による一部事務組合として、H15.4.1供用開始。高速メタン発酵処理施設、リサイクルプラザ、中継施設（可燃ごみの中間処理）の機能を有する。総公費は、約３３億円（財源内訳：国７億、起債24億、一財2億。用地約3万㎡は借地（滝川市）

構成市である滝川市では、ごみ処理を「焼却と埋立」してきたが、環境負荷低減をはかり、資源リサイクルを推進するため、メタンガスを発生・回収し、電気・熱エネルギーとして利用し残差は堆肥化する処理プラントを設置することとし、本施設の設置・運営となった。

高速メタン発酵処理施設では、分別収集された生ごみ（地区内約7万6千人分全量・最大55ｔ/日）をバイオガス化プラントにて嫌気性微生物による発酵処理し、メタンガス・炭酸ガス・水に分解。メタンガスを保管利用し、一部重油との併用で発電や、蒸気ボイラーにより熱エネルギーとして活用。処理能力は全国最大規模。エネルギー効率は、発電効率約30%、熱効率約45%、合計約75%。

発電された電気エネルギーは、場内各施設で利用されるほか、余剰電力は売電。熱エネルギーも場内各施設での利用のほか、冬季の暖房、ロードヒーティングなどに利用。施設内の電力自給率はH30で45.5%。
発酵液は処理放流。処理残差は脱水乾燥ののち堆肥化し（汚泥発酵肥料）利用している。生ごみから生まれたメタン発酵肥料「美ola」として、頒布している。

高速メタン発酵処理施設では、維持管理費として26,000円/ｔ
課題としては、計画時の人口推計をかなり下回っており、処理能力に大幅な余力が生じている点、同時に生ごみ含めごみが減少することで、さらに処理数量が減り、発生ガス量の減少ひいては発電量にも影響する点。
また各自治体からの出向職員で運営しているため、長い目で継続的に管理運営する必要があることから、プロパーの職員の必要性も検討されている。

■感想
結論　府中市においても、可燃ごみの削減は大きな課題であり、とりわけ生ごみの処理は長年の懸案。調布市との共同研究なども行われたが結果として大規模処理は見送られた。
今回の視察では、メタン発酵とメタンガス発電、さらに堆肥化という一連の生ごみ処理プラントを見せていただいたが、府中市が取り組む場合、市民の排出量が多いこと、プラントの用地の確保、設置費用、回収・運搬の費用とルートの確保、堆肥の販路など課題は多い。
しかし、循環型社会のさらなる推進や、今後の安定的な処理のあり方を考えるとき、共同運営も視野に検討の余地はあるのではないかと感じた。

（２）札幌市
■市の概要
北海道・石狩平野の南西部に位置する札幌市は、大正11年（1922年）8月1日の市制施行以来、近隣町村との度重なる合併・編入によって、市域を拡大してきました。札幌市は、明治2年（1869年）の開拓使設置以来、北海道開拓の拠点として発展し続け、現在では人口190万人を超える（北海道の人口の約3割）、全国5番目の都市に成長しています。行政区は10区。面積／1,121.26km2　　距離／東西42.30km南北45.40km

■視察項目　　複合施設としての二条小学校の概要について
札幌市が進めている、学校施設・公共施設の統廃合などのあり方について、改築にあたり複合施設として生まれかわった小学校を視察した。

担当者	札幌市中央区市民部　大通・西まちづくりセンター　　西岡眞由美　所長

その他、二条小学校長、二条はるにれ児童会館職員

■主な対応
札幌市では児童生徒の減少もあり、学校の統廃合が始まっている。（3校を1校に等）また、現在は197万人の人口も間もなく減少に転じることが想定されており、公共施設のあり方が問われている。
今回の二条小学校の立地は、地域的には市内の中央に位置するも、住宅地の様相もあり、高齢者の流入が多いほか、いくつかの大病院があることから、看護師など比較的若い（子育て世代）の世代も多く、児童生徒も増えている。（市内では小学校202校。中学校97校。）

そうしたことを背景に、改築にあたり、小学校（教育委員会）・まちづくりセンター（市民文化局）・児童会館（子ども未来局）という、3つの機能を持った複合施設として整備された。（H29.4.1開設）ちなみに給食室も新設されているが、他校の調理も行なっている。

視察をメインで受け入れてくれた大通・西まちづくりセンターの所長が、特徴や課題などざっくばらんに話してくれ有意義な視察となった。
●まちづくりセンターは、市内56の地区会館の一つ。他に公会堂など地域拠点は250～260。
大通地区（16町会）と西地区（18町会）の地域・まちづくり活動の拠点施設であり、市の各種証明書交付取り次ぎなどの機能も有する。また、貸館として会議室・集会室など。
●二条はるにれ児童館は、市内107ある児童館・ミニ児童館の一つ。（財）青少年活動協会が指定管理を請けている。0歳～18歳までの居場所のほか、児童クラブ（学童保育）や子育て支援・学習支援事業を実施。健全育成団体の占用利用。設置基準の体育室や図書室は、学校の体育館・図書室を併用することで要件を満たしている。
●学校では、廊下や階段等を広めに設定し、教室を開放型にして広く明るい学習・生活環境を整えている。アリーナも広く、屋内プール、ＥＶなど災害対応も視野に入れた仕様・設備を整えている。

課題としては、3つの機能を有する複合施設のため、併設の弊害として、地域コミュニティの拠点になっており、生徒以外が敷地内に自由に立ち入ることができることやアルコールが入る場合もあること、公衆トイレ代わりに酔っ払いなどが立ち入るなど、子どもの安全安心のためのセキュリティの問題や子どもたちの活動や歓声などと、カラオケや踊りなどセンターでの諸活動など干渉しあう音の問題、敷地内を車が通行できるため安全対策の必要性など。

また、施設内はそれぞれの管理責任が及ぶが、移動中や活動で他施設を利用している場合の管理責任や範囲、保険適用の整理など、セキュリティや住み分けが必要。

運営上の課題として、3局それぞれが管理主体のため、横断的な連携が必要。場合によっては横断的に取り組む専門の組織が必要となるのではないか。

さらに、昨年の地震による道内全域でのブラックアウトなどを教訓に、インバウンドの方々への対応に課題もあり、基本的には外国人は避難者ではなく、帰宅困難者と位置付け、一時避難などの体制を整えることとした。

■感想

学校を、地域の貴重な資源・公共施設として有効活用する観点から、更新にあたって複合施設化することは、有効な手段の一つであると実感した。特に地域密着での諸活動や、災害時の避難所機能など、日常的な連携も含めかなり有機的に機能できる可能性があり、それぞれ単時での整備・管理運営と比較して、財政負担・コスト削減に直結する。

先に挙げた課題をどう克服するかなど、整備にあたってはコンセンサスを取りながら、機能面やハード面のすみ分けなど、予め可能な限り詰めた議論をし方向性を決めておく必要がある。その上で運用・活動しながら修正していく。

（3）ニセコ町

■町の概要

ニセコ町は、人口約5000人。地方都市としては珍しく、人口は今後10年から15年増加傾向と推計。道央西部、後志地域の中央に位置し、東に（蝦蝦夷士）羊蹄山、北にニセコアンヌプリなど山岳に囲まれた地形。波上傾斜の多い丘陵地帯。近年ではインバウンドなど，観光地として来町が多い。

■視察項目　　（株）ニセコリゾート観光協会・ラジオニセコの概要について

災害時におけるサイマルラジオの効果について

防災ラジオ（緊急告知FMラジオ）の無償貸与について

担当者	企画環境課広報広聴係　大野百恵係長　　ニセコ町　林知己副町長 その他、ラジオニセコの職員

■主な対応

はじめに、ニセコ町民センターにて、副町長のごあいさつの後、ニセコ町のまちづくりの方向性や歩みについて。その後コミュニティＦＭ「ラジオニセコ」について説明。平成20年12月まで利用してきたオフトーク通信を廃止し、検討を重ね24年3月に開局。設備費1億404万円、放送中継車142万円、防災ラジオ購入費2170万円、放送管理委託1563万円、運営費補助837万円。運営は、ニセコリゾート観光協会。職員は、局長、局員3名。

■事業内容

コミュニティＦＭは、放送事業免許は民間企業・ＮＰＯしか取得できないこと、収益事業として成り立たない、「公益」事業であることから、㈱ニセコリゾート観光協会に委託し、公設民営で開局。

町民・町内事業者に防災ラジオを無償貸与。町職員はいつでもだれでも放送できるよう、毎月第3水曜日に役場の簡易放送所から訓練を兼ね、輪番で割込み放送を行っている。

「聴くだけじゃない。出るラジオ」を合言葉に、地域密着の放送を行っている。①いまニセコで何が起きているかを伝えるラジオ、②ニセコの絆を深めるラジオ、③ニセコライフをサポートするラジオがコンセプト。地域に特化した情報発信、災害に強いシステム、経済的（整備コスト）に優れているなどのメリット。

課題として、「情報発信」から「情報共有」。人材確保・人材育成。

■感想

町民と町外からの来町者、外国人、季節で変わる人口など、町の特性もあり、また災害時の情報提供や共有化、コミュニティや暮らしやすさなど、さまざまな要素をカバーする可能性を持ったツールだと感じた。特に防災ラジオを全世帯・事業者に配布しており、いざというときには強制的に情報発信できるのは強み。

5　添付資料

ア）説明者等の名刺写し(A4で1枚・別添）

イ）中空知衛生組合　①中空知衛生施設組合リサイクリーン　視察資料

②滝川市のバイオガス発電について

③組合の概要

④広域ごみ処理施設リサイクリーン　パンフレット

ウ）札幌市　①二条小学校複合施設の概要

②札幌市の児童会館・ミニ児童会館

③「二条雪あかり」　資料

④西連合町会だより

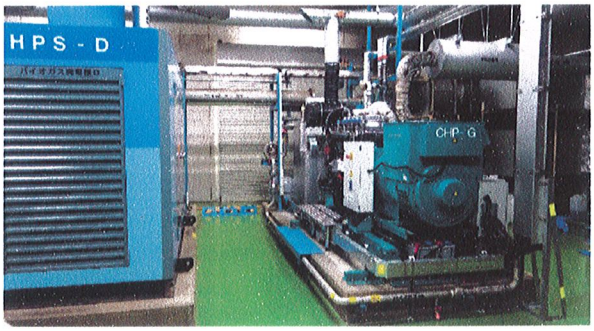
エ）ニセコ町　①ようこそニセコ町へ　視察資料

②ラジオニセコの概要

③ラジオニセコパンフレットほか

オ）行政視察中の写真

■中空知リサイクリーン



■札幌二条小学校

■ラジオニセコ